

安謝川水系河川整備基本方針

平成 15 年 7 月

沖 縄 県

目 次

	頁
1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 ...	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	6
(参考図) 安謝川水系図	7

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

安謝川は、沖縄本島南部の那覇市に位置し、その源を那覇市首里石嶺町の丘陵台地に発し、那覇市北部の丘陵に広がる住宅地の中を南西に流下し支川石嶺川を併せ、中流域の末吉公園内を貫流した後に、支川沢岷川、銘苅川を併せて東シナ海に注ぐ、流域面積 8.1km²、流路延長 6.9km の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨量は梅雨期や台風期に多く、年平均降水量は約 1,900mm、年平均気温は約 23℃である。

安謝川の流域は、県都那覇市及び浦添市に位置し、中流域に鳥獣保護区に指定されている末吉公園と下流域に工業地区が占める他は、宅地として利用されており、両市における社会、経済の重要な基盤を成している。また、流域の概ね 1/4 を占める米軍住宅跡地は、現在、那覇新都心として開発・整備が進められており、今後の発展が予想される。

安謝川の源流から末吉公園までの上流域は、市街地の中を流れる都市河川の様相を示しており大部分が人工護岸で整備されているため、護岸の隙間にススキやヤナギバルイラソウ等の草本植物が見られるほかは、生物の生育・生息がほとんど見られない。

末吉公園内の中流域は、自然豊かな溪流環境が形成されており、河床には露岩や転石が見られ、転石の下には甲殻類のサカモトサワガニが生息している。また、淵などの流れの緩やかなところでは、魚類のアヤヨシノボリが生息している。水際にはヤナギバルイラソウ、シュロガヤツリ等が繁茂し、草が覆い被さった所は水生昆虫類のアカナガイトトンボの幼虫やシマトビケラの生息場となっている。

末吉公園から沢岷川合流点までの下流域は、市街地の中を流れる都市河川の様相を示しており、水際にはヤナギバルイラソウ、シュロガヤツリが繁茂し、淵などの流れの緩やかなところでは、魚類のアヤヨシノボリ、ユゴイ等が生息している。

沢岷川の合流地点から河口までの感潮域では、河口に干潟が形成されており、甲殻類のノコギリガザミ、オキナワハクセンシオマネキや魚類のミナミトビハゼ、スナゴハゼ等が生息し、コサギ、チュウサギなどの餌場となっている。

河川の水質は、全区間がE類型（水質基準値 BOD 10 mg/l）に指定されており、近年の BOD 値 75%値でみると、上流の昭和橋地点で約 19~27mg/l、中流の末吉橋地点で約 4~10mg/l、下流の安謝橋地点で約 5~11mg/l 程度を示しており、上流の水質改善が重要な課題となっている。

安謝川の治水事業は、狭窄部における度重なる氾濫被害を防止するため、昭和 47 年から河川改修事業に着手し、河口から末吉公園までの 3.6km 区間の拡幅及び護岸等の整備を進めている。しかしながら、安謝川流域は、治水事業着手後も、整備の遅れている上流域や下流域の狭窄部において、台風や集中豪雨による大雨によって度々洪水被害を受けている。特に、昭和 60 年 8 月の台風 8・9 号の豪雨、昭和 61 年 9 月の台風 16 号の豪雨、平成 11 年 9 月の台風 18 号の豪雨では床下・床上浸水などの洪水被害に見舞われている。

河川水の利用としては、安謝川からの水の利用は行われていない。

河川空間の利用としては、末吉公園内の中流域は緑豊かな自然の中を蛇行しながら流下する溪流環境を有していることから、住民の安らぎの場となっている。

また、安謝川は市街地の貴重な水辺であることから地域住民の関心は高く、現在、河川愛護団体等により、河川清掃や河川浄化活動、リバーウォッチング等が行われている。

下流域では川に隣接する公園と一体となった親水護岸が整備されており、地域住民の憩いの場となっている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

安謝川水系の課題としては、河川の流下能力の不足により発生する洪水被害の防止、良好な河川環境の整備と保全、うるおいのある水辺空間の整備等が挙げられる。これらを踏まえ、

- ①「洪水からまちを守る」
- ②「良好な河川環境の整備と保全」
- ③「人々にうるおいを与える水辺空間の創造」
- ④「人々が水と親しみ、交流できる場の提供」

を基本理念として、河川整備を進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮し、50年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目的とし、河道の整備を行うとともに台風による高潮にも対処する。

また、計画規模を上回る洪水に対しても、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備、水害に強いまちづくりなどを関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川水の利用に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し、流水の正常な機能を維持するため必要な流量を確保するよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、治水面との調和を図りながら、動植物の生息・生育環境及び良好な景観の保全に努める。特に、末吉公園区域内の中流域は、自然豊かな溪流環境が形成され、動植物にとって良好な生息・生育場所となっているため、その保全に努める。

河川整備にあたっては、魚類等の移動に配慮した河道整備を行うとともに、多様な生物が生息している瀬・淵の保全に努める。また、水際に多様性をもたせ生物の生息・生育に配慮した整備を図る。さらに、安謝川は、市街地における貴重な水辺であるため、高齢者や子供にも配慮し、水辺に近づきやすく、水とふれあえる空間として水質改善や水辺空間の整備などを関係機関や地域住民と一体となって取り組む。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全等の観点から総合的に判断し、川の365日を対象として日々の管理を関係自治体や地域住民、河川愛護団体と連携して適切に行う。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

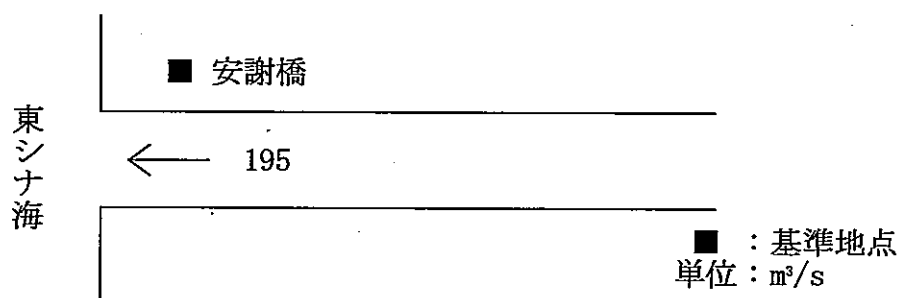
安謝川の基本高水のピーク流量は、50年に1回程度の降雨で発生する洪水について検討した結果、基準地点安謝橋において $195\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等の一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m^3/s)	河道への配分流量 (m^3/s)
安謝川	安謝橋	195	195

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

安謝川における計画高水流量は、基準地点である安謝橋において、 $195\text{m}^3/\text{s}$ とする。



安謝川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

安謝川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 N.P(m)	川幅 (m)	摘要
安謝川	安謝橋	0.6	+1.34	35	基準地点

(注) N.P : 那覇湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

安謝川の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、流量観測、動植物等の調査を実施し、動植物の保護、流水の清潔の保持等について検討を行ったうえ、設定するものとする。

(参考図) 安謝川水系図

